

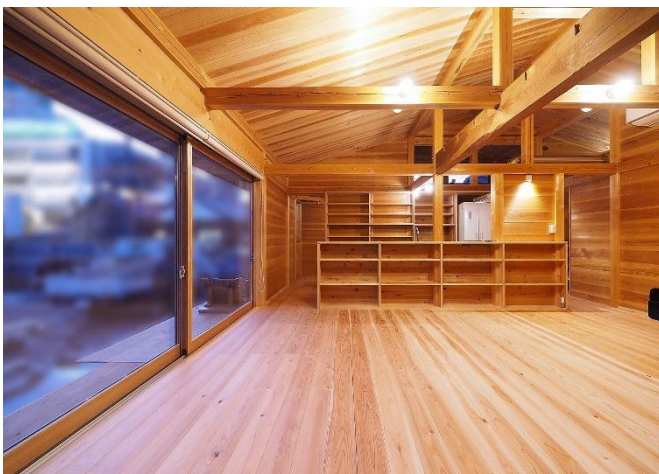
建設地	: 埼玉県川越市	竣工	: 令和3年12月	敷地面積	: 355.72㎡
地域区分	: 6地域	用途	: 専用住宅	延床面積	: 89.23㎡
設計者	: (有)綾部工務店一級建築士事務所	構造・階数	: 木造軸組・地上1階	建築面積	: 95.72㎡

## ■提案の概要

- 歴史的な街並みの残る川越に位置し、敷地周辺に旧酒蔵をはじめ漆喰や無垢板を用いた歴史的建物が多く残る一方、商業施設や高層マンションが立ち並ぶ新旧混在した複雑な景観や環境を形成している。その中で、敷地に極力表土を残すことでコンクリートとアスファルトに囲まれた街中環境下であっても自然との共生を目指した石場建ての住宅。
- 敷地の南東から西方にかけて開放される土地の利を活かし、大開口や高窓、引戸形式の内部建具の設置による通風利用や、深い軒庇による季節に応じた日射調整などによって、設備に依存せず快適性を得られる計画としている。
- 中心市街地で低エネルギーかつ気候風土に適応した暮らし方を実現するため、建物の基礎や外構をコンクリートで覆わず植栽への連携と一体化に配慮するとともに、自然浸透による雨水の適切な浸透と蒸散で土中環境の健全化を目指し、自然石を用いた割栗基礎事業、緑被率の向上、輻射熱低減のための板塀設置などの取り組みを行っている。
- 地域の歴史的建物に多く採用されてきた漆喰塗りや無垢板張りを使用し、街並み景観の向上に配慮するとともに、地域の職人と連携した維持管理が行いやすい計画としている。



市街地景観の中で伝統的な軸組と板壁を採用した外観





地域産の木材や地松の古材で構成された温かみのある内部空間




敷地全体に表土を残し土地の健全化を目指した外構

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□続き間 



リビングダイニングを中心に畳の間と寝室1、寝室2につながる続き間とし、引き戸で仕切ることにより空間に可変性をもたせている。




続き間



深い軒庇

□深い軒庇  

南北面に軒の出1,186mmの深い軒庇を設けている。

□板壁（落とし込み板壁等） 

外壁、間仕切り壁は厚さ30mmの落とし込み板壁の木ダボ接合としている。





板壁（落とし込み板壁等）



欄間

□欄間  

リビングダイニングと寝室の間仕切り上部に、開閉可能な引戸形式の欄間を設けている。

□複数の窓の位置による通風への配慮  

大開口や腰高窓により、東西、南北方向の通風を確保している。


高窓を設けることにより、温度差換気を図っている。



複数の窓の位置による通風への配慮



開放的な床下（石場建て）

□開放的な床下（石場建て） 

床下の通気性向上による耐久性向上と、浸水後の速やかな復旧がし易い開放的な床下工法としている。

□敷地等建物周囲の環境配慮  

残土を出さず適切に地盤形成をすることで、雨水の浸透性の向上を図り、豊かな植栽及び土壌の育成に取り組んでいる。



敷地等建物周囲の環境配慮



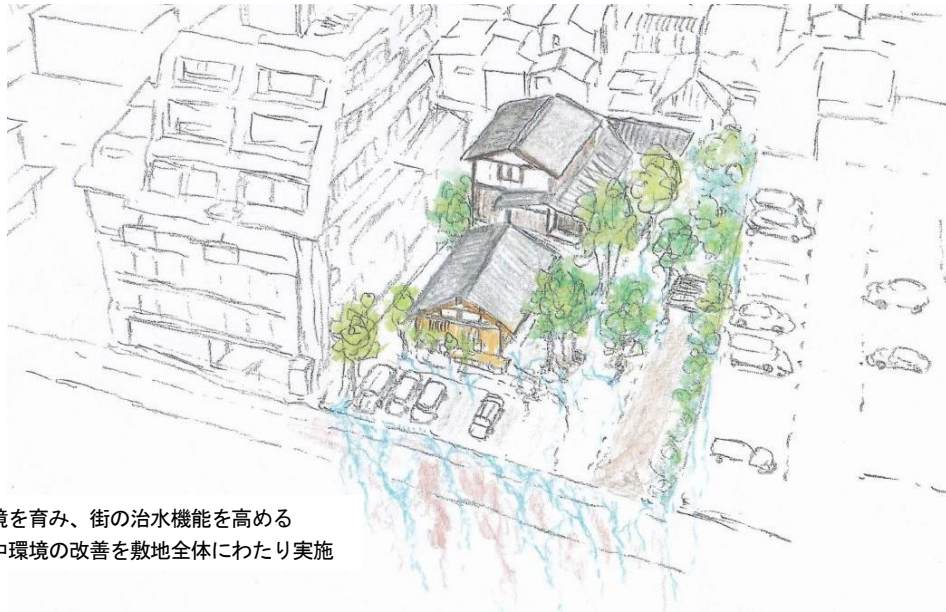
地域産の材料の使用

□地域産の材料の使用  

構造材、仕上げ材に西川桧、西川杉の天然乾燥材を使用している。

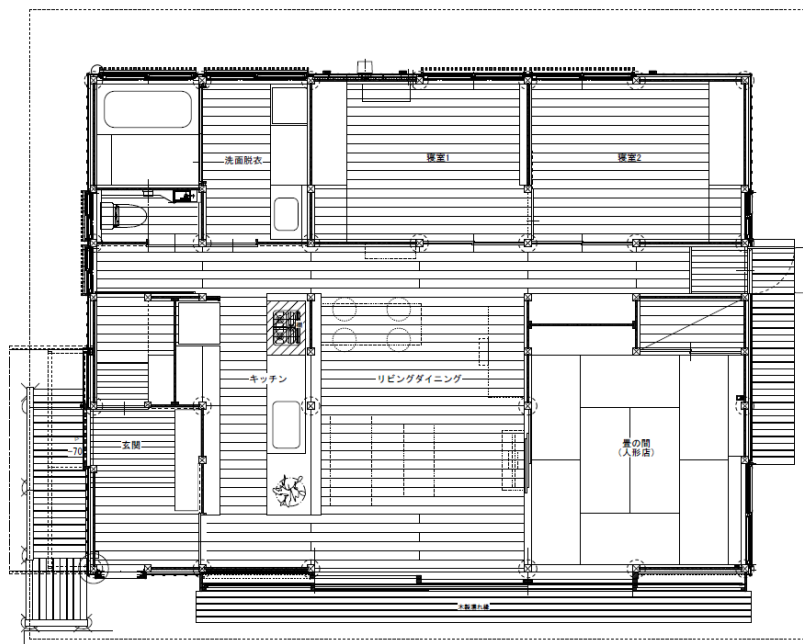
■エネルギー性能（採択時）

項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（埼玉県川越市）	
外皮平均熱貫流率（ $U_A$ 値）	0.87 以下	0.92 W/( $m^2 \cdot K$ )
一次エネルギー消費量	96.3 以下	86.9 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0 以下	0.88

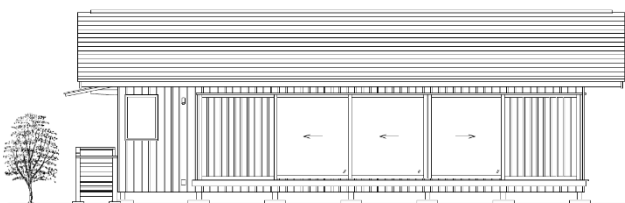


環境を育み、街の治水機能を高める  
土中環境の改善を敷地全体にわたり実施

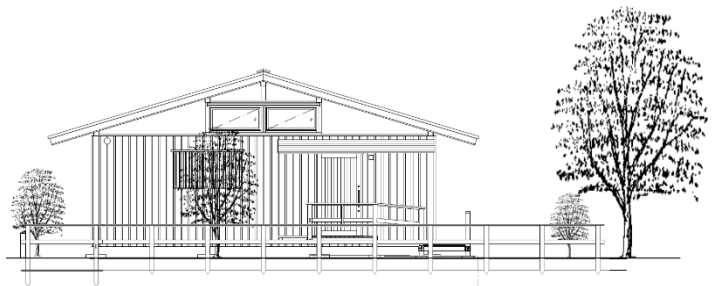
配置・土中環境・環境改善イメージ図



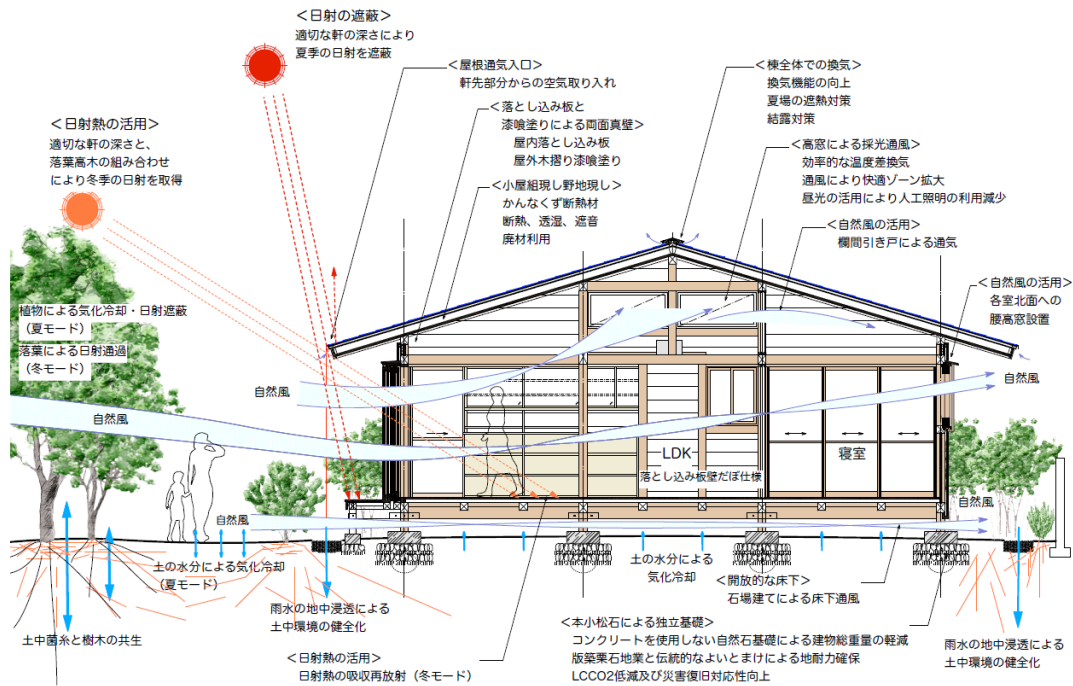
平面図



南側立面図



西側立面図



断面図

### ■お施主様の声

庭の花や木々から感じる季節の移り変わりを大切に暮らした暮らしを望み、綾部工務店さんが建てた木の住まいの住み心地の良さやみんなで一緒に造りあげる建て方に魅力を感じ、依頼しました。以前の住まいに使われていた瓦や梁材を、庭やリビングの梁、玄関の框など見える場所に再利用してもらうことで、思い出を継承することができました。

広いリビングからはすべての部屋が一望でき、天井も高いので開放感があります。玄関を通らずに庭から直接アクセスできる縁側は、友人たちから「気軽に訪ねることができる」と好評で、自然に会話が弾む楽しい時間を過ごす場になっています。

大きな窓を開け、庭を抜けて入ってくる空気のおいしさを感じながら通風に心がけています。

庭の一部には畑を作り、秋の収穫を楽しみにきゅうりやアスパラ、さやえんどうなどを育てています。

### ■設計者の声

市街地の中で自然を楽しみながら日常を過ごせるように、和紙ロールスクリーンの利用、引き戸の多用、欄間の設置など、日射調整や通風に配慮した工夫を取り入れました。間取りは、3畳を1グリッドとするグリッドプランで構成し、パネル化した部材を横から嵌め込む板壁工法の石場建てとしています。将来間取りや規模の変更が必要になった場合でも、重機に頼らず人の力で工事ができるようになっています。また工法と材料選定の際、建設から居住、廃棄に至るまでを見据えたLCAには特に配慮し、基礎石を含む多くの材料の再利用が可能な納まりとしています。

都市化が進んだ環境の中で、敷地内は表土（土の面）を露出させ、雨水浸透を図るとともに、夏季の直射日光や照り返しへの対応に配慮しました。隣棟と一体的な庭づくりや土中環境の健全化、石場建てによる床下の通気など、建物と外部、土中に至る多方面にわたる環境への取り組みによって、居住環境の快適性向上を図っています。土中環境の改善のための造作と伝統的な木組みの家との相性は良く、こうした住まいづくりを続けていきたいと考えています。

### ■造園設計者の声

建設地は、もともと荒川水系の沖積低地に位置し水捌けが悪く、また周囲をアスファルトやコンクリートで覆われ、最近の豪雨では道路からの流入で大きな水溜りができるような土地でした。さらに乾燥と工事中の踏み固めにより悪化していた土壌に浄化浸透坑（大穴）を掘り、通気浸透が永続的に機能するよう石を用いて埋設し、その上に植樹をするなどの造作をしました。これにより庭が敷地全体やその周辺の治水機能となり土中環境を育て、緑豊かな生活環境を造っていきます。植栽は、お施主様が望まれた果樹や花木など季節ごとに楽しめる樹種とコナラやカシ類など深根性の樹種を混植しました。混植することにより多様性による病虫害への予防効果、成長の抑制、管理の容易性が期待できます。草花を通じた来訪者とのコミュニケーションや街並み景観への配慮と共に、永続的に土地を潤し、豪雨や酷暑といった環境下でも家族が安全に安らぎのある暮らしを営み、街にとっても災害に強く、緑豊かな優しい空間となることを目指しています。